

2014年度JICA課題別研修 「南アジア地域 小学校理科教育の質的向上 （「教えと学び」の現場教育）」コース

対象国：アフガニスタン、バングラデシュ、ネパール、パキスタン
研修員数：8名
研修期間：2014年10月7日（火）～2014年12月12日（金）



2014年度は、当協会として初めてとなるJICA課題別研修のうち、南アジア地域の4か国を対象とした「小学校理科教育の質的向上（「教えと学び」の現場教育）」コースを受託しました。

本コースは3年を1クールとして行われるもので、今年度はその最終年にあたります。

対象地域における理科教育では、先生が教科書を読み上げ、生徒は暗記をするという形式で授業が行われています。日本のように実験に必要な器具や材料が手に入れないこと、また先生にもそれだけの知識や経験、自信がないことが理由に挙げられます。こうした課題に対して、本コースは、実験をとおして体験的に学ぶことの重要性や、身近にある材料を用いてできる実験の考案、日本における理科教育の実情を知ってもらうということを目的として実施するものとなっています。

研修期間中は、境コースリーダーによる一貫した指導の下、日本式の指導案の活用方法を学んだほか、その指導案のテーマや、組み入れる簡易実験を検討し、実際に模擬授業を行いました。

来勝していた研修員からは、公立の学校と私立の学校ではカリキュラムの内容やレベルが全く異なり、私立の方が理科室などがきちんと整備されているために、裕福な家庭は私立へ通わせるといった話や、既に現地でJICAが実施している教育関連プロジェクトにより、理科実験を行うためのキットが配布されているので、うまく活用したいといった声も聞かれました。



アフガニスタンでは、治安が不安定なため、学校の外に出て植物を観察したりすることはできないという研修員の発言には大きなショックを受けたり、日本で行われている、生徒が自ら仮説を立て、実験により結果を導くといった課題解決型の授業見学をさせていただいた後、パキスタン研修員からなぜ日本の先生はずばりと答えを教えないのかという反応があったりと、難しい面もありましたが、最終的には上述のとおり体験的に自ら学ぶことの重要性への理解を得ることができ、ご協力いた

いた柏葉高校さんでの模擬授業をなんとか終えることができました。

また研修をとおして境コースリーダーの研究室に所属する北海道教育大学の学生さんが、研修員の学びをフォローしてくださり、研修員はこうした学生さんのレベルの高さに感銘を受けていました。

皆様のご協力にあらためてお礼を申し上げます。今後も当協会は帰国研修員のサポートを行っていきたいと思いますので、引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

御協力いただいた講師・関係者の皆様（敬称略・順不同）

国立大学法人北海道教育大学釧路校 境智洋コースリーダー、帯広市児童会館、十勝教育局、あじさい保育園、北海道札幌啓成高校、北海道立教育研究所附属理科教育センター、帯広市立南町中学校、帯広市立川西小学校、とかちプラザ、帯広市図書館、帯広市立柏小学校、帯広市教育研究所、釧路市こども遊学館、北海道帯広養護学校、帯広市立森の里小学校、日本科学未来館、国立科学博物館、広島平和記念資料館

どうもありがとうございました！